

毛澤東を取り上げられて日本に逆恨みを持ち、ついでその駐屯地漢口から僻遠の西安に移され、から懲らしき思ひを抱く張良らは、懲らしくして蒋介石を打ちひに抗日監禁の大芝居を打つてからして蔣介石の感心であり抗日インテリ青年軍を進める。蒋がその著書「西安半月記」の序文に、「二週間多くとも一ヶ月にして完全に統一戦線の結成へ」蒋がその著書に追ひややめとつてゐる。しかし農家の生れ六歳の時すでに田舎の農家に生れ、父の父親はなか／＼商ひ富む百姓の傍米の仲買やなんかして、彼の傍米の仲買やなんかして、彼が十歳の時ににはすでに富農の仲間に出入つてゐた。

八歳の時の小学校に上り十歳の時漢文教師の横暴に憤慨して學校を飛び出したが、さりとて家沙に歸つて労働運動を起し、揚州秀才と見會し湖南改造聯盟の組織について協議した後、直に長沙に歸つて労働運動を起し、揚子江華ソサイエト政府の看板を離れてゐた。四日目にオツ／＼一家に歸つて見ると教師も父親も毛澤東が本當に勢力をのして来たのは十二年前の九月、湖南の農民運動を指導して工農軍三

(四)

印度の目覺め
歐洲動乱に依り時機到來？

東洋に於ける英國勢力の後退して獨自の方法に於て參加したきの事實は正に日と共に顯著ならんとして、上海、四日發電に由ればソ聯は新疆省へ既に數萬に達する兵を送つたが、右は歐洲動亂による英國の隙に乗じて印度に脅威を與へるものと觀られ目を惹いてゐる所であり、又ボンベイ三日發電に依れば、英國の對獨開戦以來全印度國民會議は英國援助の代價として印度の完全獨立を要求すべく準備してゐたが、三日午前十時半會議の領袖ネードは戰爭對策委員長ラサードと堂々總督官邸にリンリングル總督を訪問印度中央政府の改組要求その他を含む諸提案は「戰爭が平和か總理の出方如何にか」つてゐる」と語つた。

とあり、印度を主とする形勢は何等か現状を脱却せんとする氣配を呈するに至つた。又倫敦の三日報は「労働黨領袖アトリーは英印間に於ける英國のなつてゐる事を見逃す譯に行かない」と印度總督との會談に依て印度政策に言及し印度の國民議會の今後の態度は本日のカンチーと印度總督との會談に依て定まるが、印度は英國側に立ち、印度のための戦ふと共に英國印度としての戦争参加の意挺の鐵砲すら手に入れる事が出来ない。「反抗は皆殺しされる」と同じ事だ。

印度はガーンヂの所謂無抵抗主義が三億五千萬民衆の骨の髓まで沁込んで居るため、一部の絶對服從地方を除いては表面に現はれた武力闘争ではなく反英熱は總て内燃し來つたのである。このまゝの狀態で印度は十年間に於て英國の勢力を驅逐し得ると云ふ具眼の士が多いが、それはそれとして現在の貿易が既に英國人の手から印度人の手に引継がれつゝある現状を目であつたり見る貿易商である。印度人は天成の貿易商人で、幼兒の頃からまことに遊びの代りに、物品交換の眞似をして遊ぶと云ふことぐらい馴染て來てゐる。今や印度人の世界的貿易を興る致富は英國の財貨の總額は大約一千億圓に亘る。世界廣大し莫大と印度程度が富んでゐる事を見渡す譯に行かない。

印度民族が從來の長い期間、獨立を阻まれて來た第一の原因はその極端な擇取政策に由つて民力が枯渉し、反抗によるものも、印度民族を餓死線へ追つて来たが、英國が何處にあるか？だがこの謎は一方で英國人が印度から掠奪は一方で英國人が印度を始めアジアのめをつけ金で印度を始めたのである。印度民族を餓死線へ追つて来たが、英國はこれ程の無茶が平氣で出來た。然しその政策が印度人民に於て裏を搔かれて逆用され始めた時、英國の政策的破綻が到來したのである。

旅を編成し、茶陵にソヴィエト軍區を建設し、自ら工農總指揮となつてから、年五月朱赤軍團として紅軍第四軍を創立、朱德を總指揮とし毛澤東は政治委員長となつたのである。やがてこの朱毛のコンビは湖南、江西、福建方面における共產軍、ソヴィエト軍区を併せ第一次中華ソヴィエト共和国の組織にまで發展せしめたのである。

時計販賣
並びに修繕
○ 装身具各種取扱へて居り
○ ます
○ 電話で御一報次第參上致
○ します

西和文活版印刷
二
サンチ
新型グマドーレス及び
ンケス、ア、ブレンシオン
作販賣
福ケマドル修繕
品販賣
人間に多數顧客を有し
は入念迅速
で御一報次第至急參上
ます

東洋軒
△△△
ベンチシンドコ・デ
マーヨ橋五三三(三三
コリエンテス街四三三
電話三二一九二
電話三一六三九二
◆純日本料理並びに舟物
御饌會にも應じます
一切折詰辨當の仕出します
◆晝夜開業して居ります
口セん廉賣
△△△
東洋バー
△△△
日本人洗濯店並ニ御家
販賣ヲ蒙ツテ居リマス
力
薩
工
摩
有
水
武
一
久
松
純
雄
竹
ノ
内
武
義
加
藤
吉
隆
ヘネラル・オルノス街五
電話二三一〇五一六四

氏三四 八

